

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103010		
法人名	社会福祉法人 高佳会		
事業所名	長森いきいき倶楽部		
所在地	岐阜市前一色西町4-6		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170103010&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゲスト(利用者)に寄り添い、午前中散歩、喫茶店、旬の食材を使った昼食作り、午後はレクリエーションと認知症ケアに必要な、水分を1日1300~1500cc栄養+運動+排泄コントロールを行い穏やかに日々暮らして頂いております。建物は京都の町屋をイメージしており、ホーム内にはゆったりと生活して頂けるよう音楽を流しております。又、地域に根付いた事業所を目指し、ボランティアの受け入れや外出(買い物・散歩)、自治会活動などでの社会参加を積極的に行っています。排泄ケアにおいては、オムツを使用していた方の排泄パターンや睡眠状況を把握し、綿下着へ移行できた方もいらっしゃいます。医療との連携では、終末ケアを希望されるご家族の意向に沿えるよう、提携医との協力(点滴や往診)を得て、看取りケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が満足し、笑顔のある暮らしを実現するために、全職員による気づきやアイデアを最大限に活かしたケアに取り組んでいる。利用者の思いやその人らしさを把握するために、「ひとときシート」を採用し、職員の「意識付け」を重視したケア方針を定着させている。その結果が、事故の再発防止や排泄の改善、不穏行動の緩和等に表れ、利用者の穏かで生き生きとした表情を引き出している。管理者・職員は、日々の「気づき一言」を、日誌に記録し、全員で共有しながらサービスの向上に役立っている。そして、利用者の感情や想いに寄り添い、生きがいを感じる事ができるように、支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は毎朝の朝礼にて復唱し、管理者、職員の共同の理念としている。	理念は「ゲストに満足と笑顔、地域に安心と輝きを」を掲げている。理念は、朝礼時に全職員で復唱して共有している。地域との交流を大切にしながら、利用者の満足と笑顔のある暮らしを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時は近隣の方と挨拶をし、地域の一員としてお祭りや地域清掃に参加し交流をはかっている。(コミュニティセンターへ本を借りに行く、近隣の喫茶店でチケット購入しモーニングに行く、隣のゆりレディース(産院)の駐車場を行事でお借りする等)長森中学校の生徒が福祉活動として当施設で活躍したり吹奏楽部との交流を深めている。	自治会員として、地域行事や清掃活動等で地域と積極的に関わっている。地元中学生の福祉体験やブラスバンド部員が定期的に訪れ、交流を深めている。近隣からの野菜などの差し入れも日常的にある。	地域住民に向けた、ホームの役割りや認知症の理解を深めるために、啓発活動の検討を進めており、その取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の認知症の方の御家族相談を受け、介護保険の説明を行い、サービスを使うことにより家族様から喜ばれる。職員のほぼ全員が普通救命講習を受講し、応急手当協力事業所として認定される。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ゲストや家族が参加され、意見を取り入れる。消防訓練や運動会を開催し、交流しながら運営推進会議を行う。	会議は、行政・地域包括支援センター・民生委員・利用者・家族が参加し、隔月に開催している。運営報告後、防災訓練計画やホーム行事の企画について話し合っている。会議で出された意見等は、速やかに運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点・不明点があれば介護保険課に相談し、連携をとっている。(アネックス職員不足の中、グループホーム職員の兼務を特例で認めていただく)高山在住であった方も住所特例を認めていただき、御家族の近くで居住することができる。	市とは、介護保険制度に関する疑問を常に相談している。法人内職員の兼務規定や住所特例の申請等で助言を得ている。運営上の課題は、その都度実態を報告し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて、全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。認知症ケアに対する、拘束の弊害を職員が周知徹底している。	身体拘束のしないケアを実践している。職員は、内外の研修で、拘束の弊害を学び、周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて虐待防止を学び、職員間で注意を行っている。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時、身元引受人(成年後見人制度)の質問を受け、制度がある事を説明しご安心頂く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時、十分な説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族からの意見・要望を聞き、ご意見箱の設置を行っている。又、家族会では家族参加のバーベキューを開催し、その際はアンケートを行い、集計したものを全体会で共有し次回に繋げている。	家族の面会時や、家族会の機会に意見を聞き取っている。家族からは「できるだけ外へ連れ出してほしい」「日帰り旅行に行きたい」等の希望が出され、速やかに対応し、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日々の会議で意見を交わしている。賞与の際など、定期的に代表者と面談を行い意見を引き出している。毎月にリーダー会議や全体会議・随時相談行う。	管理者は、日々の会議で、職員と意見を交わしている。事故の再発防止や介護保険制度を基礎から学びたいなど、多様な意見が出ている。意見等は、リーダー会議や全体会議で話し合い、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い評価し、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の全体会ではひもときシートを使用し担当者が発表し知識や技術を習得していくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オムツ業者(リブレコーポレーション)の方による使用しているオムツの講習会や提携医療機関の研修、公的機関の研修会には積極的に参加し、サービス水準の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望を聞きプランに活かし、又、職員にもニーズの把握に努めている。入居初期の段階にひもときシートを行い、本人様の本当の気持ちを引き出す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの実施で、御家族の介護に関する希望を伺っている。入居時には御家族から介護に関する意向を伺い計画を作成している。家族会やアンケートでは、御家族の想いを汲み取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に対する不安や要望を読み取るよう心がけている。歯医者ご希望の方はデンタル往診、マッサージがご希望であればDrに相談し、必要な時は医療マッサージを受けいれている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1つのユニットを家族と考え、調理、掃除などの家事をゲストと共にやる。庭や畑仕事に興味の方へは草むしりを共にやる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族による退院・外出(お墓参りなど)の連絡をとっている。何事にも家族に相談を行い連絡をとりあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	喫茶店へ行くことが習慣だった方へは近所の喫茶店へ行き、庭いじりが趣味だった方へは庭にて草花を育ててくださるなど、今までの生活を継続できるよう支援している。	利用者の、教え子や職場の同僚が訪れ、ゆっくり語り合う場を提供し、再訪につなげている。馴染みの喫茶店・神社・繁華街・岐阜公園などへは、職員と共に出かけしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲスト同士が良好な人間関係を築けるよう、又関りが行えるよう、外出も頻繁に取り入れている。トラブルが起きないように予測をし(席替え等)支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老健等に移られたゲストで再び入居申し込みがあるなど、退居後の御家族であっても、相談に応じ、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の想いの把握に努め、入浴時間、又晩酌など、本人様と相談行いケアに繋がっている。サービス担当者会議にも本人様が参加し、思いを話していただいている。	利用者の表情や会話から、思いを把握している。個々の生活歴にも思いをめぐらし、気づいたことからは、「ひもときシート」に記録し、全職員で共有している。思いや希望は、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から話を伺い、馴染みの家具などお持ちいただいている。在宅時のケアマネジャーから在宅時の習慣・生活等お聞きして支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、申し送りにて情報を共有している。日々の生活の中でゲストのできる能力に気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族来館時等の要望やゲストの気持ちを毎月のサービス担当者会議や計画作成に活かしている。またモニタリングを行い、新たな計画へ展開できるよう努めている。	サービス担当者会議で、気づきやアイデアを出し合い、本人・家族の希望を入れた介護計画を作成している。現状に変化が生じた場合は、モニタリングを基に、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはその方の生活が分かるように詳しく記載し、職員間で情報を共有している。また記録を振り返ることで、介護計画の見直しを行っている。介護計画に沿った実施表の記入で状況を把握し、次回の計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージを要望されるゲストには手配をするなど、ニーズに対応するよう支援している。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の喫茶店やスーパーの買い物、コミュニティバス・地区センターの利用など地域資源を利用している。コミュニティセンターでの本の活用・アクティビティの際活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医をお聞きし、継続される方や提携医(内科)に変更するなど支援している。又、整形や眼科などについては近隣の医療機関を紹介している。入居後においても要望に応じて提携医へ変更するなど支援をしている。	本人・家族の希望を確認し、協力医をかかりつけ医に変更している利用者が多い。数人は、これまでのかかりつけ医を継続している。定期的に、協力医の往診があり、24時間の連絡体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に日々の状態を伝えるだけではなく、些細な体調や状態の変化でも密に連絡を取り合い、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サンライズクリニック在宅ナースが担当し、入院先Drと連絡を取り合う。御家族とも相談しながら退院時等には退院調整室や栄養相談に出向き、早期退院を柔軟に受け入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と相談し、理解を得ながら、提携医・訪問看護師との連携をしてターミナルケアを行う。ユニット内でも研修を行う。	契約時に、重度化・終末期の方針を説明している。家族とは、同意書を交わし、段階的に関係者で方針を共有している。医療・看護・介護の連携を取り、終末期に応じている。職員には、精神面の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを元に、全体会議にて新人スタッフへ周知徹底している。消防署の職員より普通救命講習を全職員が受講し、終了証書を取得している(平成23年3月22日時点)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、災害時に備えている。非常時の食料や飲料水は備蓄しており、定期的に確認している。運営推進会同時開催時には地域の代表者に参加いただく。災害時連絡先には地域にも自動で入るよう協力を得ている。	消防署の指導の下、避難訓練を定期的を実施している。各階からの避難経路と優先的にやるべきことを確認している。訓練は、運営推進会議の出席者と合同で行うなど、チームによる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	既往歴をスタッフ一人一人が把握し、その方の想いを尊重することを心がけている。	個々の生活歴や個性を把握し、誇りを損ねないように優しく言葉をかけている。想いを尊重し、本人のより良い状態を引き出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択ができる声かけを行っている。日々何がしたいか、何をされたいかを傾聴し寄り添い行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望をお聞きし、予定を立てている。管理者は定期的に現場へ入り、本当にゲストが望んでいる支援かわりダーと共に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度美容室の来館があり、要望に応じてカット・カラー・パーマを行う。洋服は要望を聞き選んでいただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に沿った食事ができるよう、個別にパンやノンアルコールビールを提供する。誕生日には食べたい物をお出しし、メニューの確認・準備(野菜切り)後片付け、全てゲストと共に行動。	利用者の嗜好を把握し、希望に添った食事づくりをしている。食材の準備や後片付け、味見も行っている。職員も同じ物を食べ、見守り介助をしている。誕生日の献立や、月に1回の外食も利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1300～1500cc バランスの取れたメニューを作成している。たんぱく質を重視し、血液検査の結果を元に思案している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。ゲストのできる力にあわせて、介助を行う。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表などから排泄パターンを読みとり、排泄管理を行う。前もっての声かけや誘導で日中のオムツ外しを行い過ごしていただいている。	個々の排泄パターンに添って、声かけ誘導し、トイレでの排泄につなげている。職員は、一人ひとりの様子を丁寧にチェックし、前もって対応することで、おむつの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動に心がけ、整腸効果を促す食事や水分の心がけ、自然排便になるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間帯を遅くすることで、夜間入浴したい方にも対応できるよう、支援している。	入浴は、月～金曜日にかけて、何時でも入浴できるように柔軟に対応している。利用者の満足が得られるように無理強いをせず、自主性を大切にしている。異性介助も、違和感なく、自然に受け入れられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝はご本人のペースにあわせ支援を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ゲストの服薬状況を把握し、隔週で来館する薬剤師とも連絡を取り、服薬による症状の変化などをチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・園芸・カラオケ・音楽等、利用者の希望の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩・ドライブ・又行事にて外出を行っている。広告・催し物などを見てゲストと「買いにいこうか」「見に行こうか」と話し出かけている。	ホーム周辺を、田園風景を見ながら散歩に出かけている。喫茶店や大型商店へ買い物に行ったり、馴染みの場所へのドライブを日常的に支援している。	

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人が現金を所持し、安心していただけている方も居る。ゲストの金銭については、入居時、御家族に説明し、同意書を取得した上で管理している。外出時にはゲストそれぞれの希望に沿った買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に固定電話を置いている方あり。手紙やハガキのやりとりも行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花教室の月2回実施や展示物で季節感を取り入れている。中庭は季節を楽しめる花を植える等、整備し居間にはアロマを設置し、居心地のよい空間となるよう、心がけている。	共用の空間には、利用者が生けた草花、刺繍や絵画を飾り、季節感を取り入れている。居間には、ゆったり寛げるソファや畳のコーナーもある。アロマの香りが、ほのかにたどよい、癒しのある空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・居間で自由に過ごせるよう支援を行っている。ゲスト同士がお互いの居室で談笑したり、居間の一人掛けソファで新聞を読み、くつろいでいる姿が日常的に見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には家族へ依頼し、本人様の馴染みの物を設置していただき、居心地のいい環境作りに努めている。	居室には、収納ケースや馴染みの小物類がほど良く配置されている。表札も、目線に合わせ、分かり易く、飾りケースと共に掲げている。利用者同士も気軽に行き来して談笑している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所にはわかりやすく掲示し、筆筒などは整理しやすいように引き出し毎に名前をつけるなどして、ゲストの方ができるだけ自立した生活を送れるよう支援している。		